

旧徳中
城南高

同窓会々報

第 92 号

発行所:旧徳中・城南高等学校同窓会事務局 徳島市城南町2-2-88 TEL088 (652) 0084

印 刷:株式会社サラト



2017年

城南女子バレーボール部

インターハイ全国三位に入賞して

森本 二以奈 (平成30年卒)

私たち城南高校女子バレーボール部は、平成二十九年度全国高等学校総合体育大会で三位入賞という誇らしい結果を残すことができました。

徳島県予選では、一セットも落とすことなく優勝し、全国大会出場の切符を手に入れました。予選終了後から本戦までの約二ヶ月間で、練習試合をたくさん組んでいただき、ブロックやレシーブの強化をしてきました。

そして迎えた全国大会。予選リーグでの初戦は、大阪府代表金蘭会高校とでした。優勝候補として注目されていたチームなので、力の差を見せつけられ完敗してしまいました。しかし、昨年も敗者復活からベスト8まで勝ち上がったので、なんとかして優勝したいという気持ちで全員が一つになり戦いました。その結果、勝つ

ことができ、予選突破しました。

続く決勝トーナメントでは、私たちの強みであるレシーブ力で一戦一戦勝ち上がり、ついにベスト8をかけた試合を迎えます。相手は東京都代表八王子実践

高校とでした。強豪校として全国でも名の知れるチームです。胸を借りるつもりで戦った第一セット目は、接戦になります。が、相手の高いブロックや鋭いスパイクに圧倒され落としてしまいます。しかし、続く第二セット、第三セットは、私たちらしいレシーブから組み立てる頭を使ったバレーをし、ベスト8進出を決めました。

私たちの最大の目標はベスト4以上になることだったので、ここで終わるわけにはいかないと、



一致団結しベスト4をかけた試合に挑みます。相手は石川県代表金沢商業高校とでした。粘りのあるチームでしたが、私たちも負けずに粘り強いバレーをし、フルセットの末勝利しました。準決勝では全力を尽くしましたが一歩及ばず負けました。

この大会で、目標は大きく掲げ、それに向かって努力すると夢は叶うと実感しました。普段から支えて下さった全ての人に感謝の気持ちを忘れず、この経験を今後の人生に活かしていきたいです。



古墳の盗掘

コスモス法律事務所 弁護士 四宮 章夫（昭和42年卒）

私の高校2年生時（1966年）に、榎原考古学研究所の末永雅雄教授が、現在の眉山CC敷地内にある八人塚古墳（前方後円墳）の調査に訪れたことがある。来訪予定を知った私は、友人のM君らに、それまでに一緒に発見していた吉野川北岸の古墳群の中の未調査古墳の存在を調査隊に知らせ、あわよくばついでに発掘を手伝わせて貰おうと提案し、その正確な所在を再確認するために皆で出かけた。

小高い峰が続く一帯の地肌をつつきながら進むと、岩に突き当たる場所があり、期待を膨らませながら掘り下げた。持参の小さなスコップでは用を足せず、近くの神社を不意に訪ねてトンガ（唐鍬）を借受け、それで最初は恐る恐る、次第に大胆に掘り進んでいくと、大きな天井石が出てきた。

当初はそこまでの心算であつたが、どうせ学者も蓋を開けるのだからと、天井石を一枚めくり、石室の中を覗いてみた。岩盤を上から割り貫き、中

に木棺を納めた様子だが、一面泥様のもので覆われていて、期待した遺物や人骨は見当たらなかった。掘つてみたくなり、持参の竹べらで、泥様の物を表面から慎重に剥がし始めたが、何も見つからず、流石に気が咎めて、途中で作業を中止した。

驚いたのは、その翌朝の新聞記事である。古墳が盗掘され、徳島県警が捜査を開始したと書かれているではないか。ここは隠しておくしかない私達の衆議は一決した。

結局は何もなかったが、トンガを借りた神社が高校の某先生の御実家であつたことから、職員室では公知となり、ある朝、通学中の私の自転車の荷台に一人の先生が乗って来られて、後ろから、「まだ見つからへんか。」と仰つたのには参つてしまった。

私達が盗掘したのは、板野古墳群の一つであつたと思われるが、今日までの間に研究が進み、その中には西山谷2号墳のように、3世紀中葉、国内最古段階の竪穴式石室を持つ円墳と言われているものもある。

ともあれ、古墳調査にやつて

きた学者に合流するため、学校をさぼって現場を訪れ、朝から調査の手伝いをしたが、流石、末永先生は、私達が盗掘者と見抜いたと見えて、調査の進め方を、詳細かつ丁寧に説明して下さった上で、学問は、調査、仮説、確認調査と順を追って進めるものだから、古墳が発見されても、調査し、仮説を立ててから発掘に臨むべきであり、研究の未熟な段階で次々と発掘すれば良いものではないと、教えて下さった。

調査中、立会つていた地元の考古学研究家が、自らの収集品のガラス製の勾玉を見せて、「精巧な技術ですね。」と自慢するのに対し、末永先生が「ガラスの原料を木に巻き付けて焼いただけです。」と素っ気なく答えられたのが面白かった。昼食用に貰ったパンを頬張つたのも、楽しい思い出である。

私と賀川豊彦と記念館

鳴門市賀川豊彦記念館 館長 岡田 健一（昭和37年卒）

私が賀川豊彦のことを知つたのは30年くらい前、徳島駅前にあつた古本屋で見つた一冊の本であつた。賀川の業績があまりにも膨大なものだったから、本当だろうかと思いつつ賀川関係の本を読み始めたことであつた。その後、賀川記念館を建てる運動を起そうと、私にも声をかけてもらったことより、それに加わつた。

私は城南の同窓会にも協力をしていただきたいとお願いに行つた。当時、岡島安次先生が事務局長をされてゐた。最初に先生から「城南にはたくさん的高名な卒業生がいるので、ある特定の人物のためだけに協力をすることはできない」と言われた。しかし何度かお願いに行つていくうちに先生も賀川の偉大さを感じてくれ、「賀川記念館建設を目指す会」の委員にもなつてくださった。先生は熱情的な方で委員になられてからは大変熱心に会に参加して下さつた。私に「賀川のことを同窓会の総会でも説明しろ」と機会を与えてくれた。また先生は東京や大阪の同窓会で記念館建設を呼びかけてくれた。さらに谷中隆子先生らにも働きかけてくれ校内での展示会も開いてくれたことでした。

岡島先生の後、坂野栄一先生が事務局長になられ記念館建設運動の委

員も引き受けて下さつた。そして記念館の建設に同窓会として多額の寄付金もしていただいた。大変ありがたいことであつた。賀川記念館はすべて寄付金で建てられたものである。記念館建設後、現在では栗飯原治仁同窓会会長が記念館の運営委員として運営に関わつてくれている。このように賀川記念館は城南同窓会の方々に大変お世話になつてゐる。

ところで私が賀川のことを城南の関係者にいろいろとお願ひするのは、旧制徳島中学時代が賀川豊彦にとつて非常に重要な時期と考えているからである。神戸で両親を亡くして徳島の実家で育つた賀川はさらに家の破産という状況にも追い込まれる。

このような厳しい経験の後賀川はキリストの教えに目覚め賀川は寝るのも惜しんで人文科学、自然科学の勉強をするようになった。賀川にとつて人間変革の時代であつた。

それで賀川は活動家と言われるが、実はものすごい読書家、勉強家であり、これを土台とした活動家であり、一人の人間がやったとは思えないような多くの先駆的な仕事をされているのである。

これらのことを城南高校生、同窓生に知っていただきたいのである。



お世話になりました

前校長 松山 隆博



約三十年前に新任教員としてスタートさせていただいたこの城南高校に、最後の二年間、再び勤務することができた私は大変幸せでありました。二年間の勤務の中で、保護者となった何人かの教え子たちと再会することができて本当にうれしく思っております。

二年間は決して長くはありませんでしたが、全力で走り抜けたという思いでいっぱいです。高校時代は生徒にとって自分の「夢の実現」に向けて精一杯の努力をするということがとても大切なことで、私も生徒たちを懸命に励ましてきました。しかし、それだけでなくもう一步踏み込んで、これからの時代をどう生きていけばいいのか、人間として大切なことは何なのか、などについてささやかですが私なりのメッセージを伝えてきたつもりです。どこまで生徒の気持ちに響いたか、あまり自信はありませんが、私自身の言葉で語り続けることができたことをうれ

しく思っております。

ところで、昨年度、ある会の席上で一人の先生が「城南は生徒のために自分がやりたいと思うことが自由に、とことんできる学校」と言われたことを聞いて驚きました。この思いは三十年前に私がこの城南で感じていたことと全く同じだったからです。勿論、学校目標に照らして先生方の間での調整は当然必要なことなのですが、「自主自立」の精神は生徒にとってのものだけではなく、教員にとっても大切なことだと感じると同時に、これは、城南の「伝統」と言ってもいいのではないかと思っただけであります。本当に城南は素晴らしい学校です。そして素晴らしい先生方がいます。城南高校の生徒たち、先生方、保護者の皆様、そして同窓会の皆様方、本当にお世話になりました。これからの城南高校のたゆまぬ発展を願うとともに皆様方のご健勝を心よりお祈りいたしております。

元氣あふれる城南

新校長 永松 宣洋



本年度より校長として赴任しました永松宣洋です。初めての城南高校での勤務となります。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、国語科教員として採用されて以来、城東高校、県教育委員会などの勤務を経て、昨年度まで2年間、徳島商業高校校長を務めてまいりました。また本年度は、昨年度に引き続き徳島県高等学校野球連盟会長を任され、加えて徳島県高等学校教育研究会国語部会長、高等学校体育連盟ではバレーボール部、高等学校文化連盟では吹奏楽部の担当校長となっております。昨年度の全国大会で素晴らしい成績を残した女子バレー部のさらなる飛躍、11月に開催される近畿高等学校文化祭徳島県大会での吹奏楽部の活躍を楽しみにしているところです。

放課後、校長室から見えるグラウンドからは、野球部員がボールを打つ音やソフトボール部員などのかけ声が聞こえてきます。

多くの生徒たちが部活動に勉強に懸命に取り組む姿勢、「文武両道」を目指す城南生たちの若いエネルギーに、私自身が元気づけられているところです。「城南高校100年誌」に目を通すと、明治以来時代は変わっても、ここで学び、情熱を燃やし、成長を重ねてきた若者の姿を想像できます。広く社会で活躍する人材を輩出し続けてきた学校が持つ歴史と伝統の重みを実感し、お目にかかる同窓生諸氏の愛校心の強さにもただ感じ入っております。

平成30年度より、文部科学省事業のスーパースサイエンスハイスクール（SSH）第4期の指定を受け、さらに5年間の研究を進め、科学技術の分野で活躍する人材の育成に努めることとなりました。また、生徒一人ひとりが、学力と体力はもとより、コミュニケーション力や課題解決力など、現代社会で夢や目標を実現するための基盤となる力の育成により、良き伝統を引き継ぎ、城南高校を愛し誇りを持つて社会で活躍する人材となれるよう力を合わせて頑張っているところです。

同窓会の皆様のこれまでの御支援に心から感謝を申し上げるとともに、頑張る城南高校を引き続き温かく見守っていただくことをお願いし、重ねて皆様のご健康とご多幸をお祈りしご挨拶いたします。

恩師便り

城南高校の思い出

旧職員 地学 町口 雅治
(昭62・4〜平14・3)

城南高校には教員として新任明けの2校目に赴任した。そして、15年間勤務をした。その後、転勤し次の高校では、かかってきた電話を取って「はい、城南高校でございます。」と言ってしまった。

私にとって、城南高校は教員としての自己確立の場であった。担任として10年間、副担任として5年間、また、同和教育主事として4年間を過ごした。1年生から3年生までを3回りと2年生の担任。受け持った生徒が卒業していくと、教師として人間を育てたという感慨に浸ることが出来る。もちろん、育てたのは保護者であり、成長は本人の努力によるものであるが。教え子の中で、教員となっているものが多い。教え子と同僚となった時は不思議な感覚であ

る。中でも、最後に担任をしたS君は、今でも合う機会が時々ある。合うたびに、教員として立派になった、と感じることができ

る。私は、地学の教員であり、顧問をしていた地学部活動も活発であった。月一度の天体観測会に、多くの部員が集まり、今は無き研修会館の屋上で、一晩中空を見上げていた。夏の合宿では、決まって剣山山頂ヒュッテに2泊3日で泊まりに行き、夜は銀河がはつきり見える満天の星を楽しんだものである。あるときは、昼間に剣山山頂から「次郎笈」まで部員を連れてハイキングに出かけた。山の天候らしく、行きは晴天であったが、帰りは雷が鳴り響く豪雨に変わり、雨水が滝のように流れる山道を、四つん這いとなり帰ってきた思い出もある。

最後の4年間は同和教育主事として過ごした。城南高校の同和教育は、それまでの先輩方のご努力で「差別をしない、させない、許さない」の方針で、どんなに進められていた。私が同和教育主事の3年目に、県教育委員会から同和教育推進のため、2年間の研究指定を受けた。それまでに積み重ねてきた同和教育の上に、松柏会にも同和教育推進部をつくり、保護者も巻き込んだ同和教育を展開した。生徒の活動は、それまでも活発であったが、外部の研修会や啓発活動に参加を行い、一層熱

心な活動を行った。そのおかげで、ヒューマンライツ部から人權啓発新聞「Tomorrow Wind」(当時名)を刊行することができた。研究指定2年目に、研究活動をまとめた冊子を発行するとともに、「高同研大会」を開催し、全学年の先生方の公開授業を行い、差別をなくすための同和教育ホームルーム活動や、同和教育の視点に立った授業を、全県下からの参加者に見ていただくことができた。

15年間の長きにわたり、私を育ててくれた城南高校。その後の教員人生に多大な影響を与えてくれた。城南富士を見るたびに、思い出がよみがえる。城南高校よ、永遠なれ！

ハイザー城南 ハイザー城南
リーベ ホッホー

我が城南高

旧職員 英語 橋見 誠一
(平2・4〜平16・3)



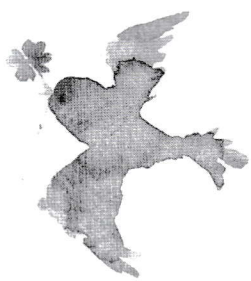
私には特別な存在の学校が2つある。1つは自分の母校である富岡西高校。もう一つが城南高校である。実は私の教え子の

中には、私が城南高校の卒業生だと勘違いしている者も多い。私が城南のことを頻繁に話題に出すかららしい。当然である。富岡西高校には生徒と教員で13年在籍したのに対して、城南高校には14年も勤務したのだから。城南高校には28歳で赴任し、41歳で転任したが、この14年間は教員としての基盤を固め、そして一番充実した時期でもあった。赴任して先ず感じたのは、校舎が土足で古かったこと、ブラスパンド部による校歌の生演奏が本場に格好良かったことである。今は当時の面影がないくらいお洒落な校舎であるが、当時はびっくりする程古かった。城南祭でのバザーで、ブレーカーが落ちることも度々であった。校歌については、今でも徳島県一だと思っている。在校生の皆さんには、誇りを持ってこの校歌を大きな声で歌ってもらいたい。生徒と教員の多さにも驚かされた。当時の2年生は13クラスあり、教員も80名くらいいたので、合わせて1,500名以上が在籍していたことになる。

城南高校ではいろいろな出会いや出来事があったが、教員として2人の方に大きな影響を受けた。1人目は自分の英語教員としての師とも言える存在で、目標でもある榎本先生である。英語の知識・教授方法などあらゆる面で凄いな先生で、いろいろな教えていただいた。夏休みや冬休みに、進路課が計画する補習以外の独自の補習をするようになったのも榎本先生の影響であり、今の自分があるのも榎本先生のおかげだと思っている。2人目は初めて3年の理系応用クラスを担任した時の豊崎校長先生である。勿論生徒のことを第一に考え進路指導をしていたが、正直「結果を出さなければ」という思いがプレッシャーともなっていた。ある日、職員室で生徒と面談していると、豊崎校長から「学校のことより生徒の可能性を考えてほしい。もし、センター試験で失敗したとしても、その生徒に可能性があるのなら、志望を下げずに挑戦させなさい。1年や2年の浪人は、生徒の人生から見たら大したことではない。」との助言をいただいた。この言葉は自分の心に響いた。そして、それ以降自分の進路指導の指針となった。もう一つ大きな存在が、城南高校の生徒たちである。毎日生き生きとした学生生活を送り、部活動と両立させながら大学に進学する姿に、「高校生はこうあるべきだ。」という思いを抱いた。教員との距離が近く、卒業後もよく訪ねてくる彼らに母校愛を感じ、自分の母校である富岡西高校もこうしたいなあと感じたものである。

城南高校在任中には、6か月のイギリス語学研修に行く機会も与えてもらった。この研修も、教員としての自分を大きくしてくれた。英語の指導法も変わり、県外の先生との交流を持ち、生徒が「夢」を追い求める姿をより積極的に応援するようになった。城南高校での離任式で、教科担任をしていた29HRの生徒たちが涙を流してくれた。式後に教室に招いてくれたのも良い思い出である。数多くの生徒の結婚式にも招待してもらったし、今でも毎年同窓会や飲み会に誘ってもらっている。城南の教え子たちと一緒に過ごす時間は、現在大きな楽しみの一つである。城南高校に長く勤務でき、素晴らしい先生方や生徒たちと出会えたことを本当に幸せに感じている。

最後に、今回このような機会を与えてくださった高木先生に感謝すると共に、城南高校の一層の発展を願ってやまない。



懐かしい城南

旧職員 英語 金澤 敦子
(平4・4〜平15・3)

三月の終わりになると思い出すのは城南の桜。その年は三年生の担任だったのですが、転勤で城南を去るため春休み中の休日に荷造りをしていると、卒業生がやって来て段ボールを運んでくれました。涙が出ました。桜を見るとその時の光景が目につくのです。

初めて城南高校で授業をしたのは、新任研修での協力校研修でした。その時、英語の日下先生から「一生を通して取り組める自分なりのテーマを持って、これからの教員生活を送るようにな」という助言を頂きました。城南高校で、教師としての心構えを教えて頂き教員生活が始まりました。

当時を振り返って思うことは、まず「教員、生徒、そして保護者も、城南をこよなく愛していた」ということです。私が赴任した時には、長年城南に勤務されている先生や、城南が母校であるという先生方も多くい

らつしやり、先生方から色々な話を伺いました。学校や教育全般に対して、辛口のこともありましたが、すべてその根底にあるのは、いつも城南への愛情でした。また、私が担任したS君のお母様は「うちはみんな城南です。『城南愛』です。」とおっしゃっていた、誇らしいお顔を今でもはつきり覚えています。そして私が勤務時に生まれた長男も城南を卒業しました。口数が少ない息子でさえ、進路校を迷う妹に高校のことを聞かれるたびに、「城南が一番いい」の一点張り。城南を愛する気持ちは、相当強いようです。城南に関わる人みなをそういう気持ちにさせる不思議な魅力があるなあと改めて実感しました。

次に、「自主自立」。城南では、生徒達が何かをやらされているという感覚はなかったように思います。それぞれが自由に、自分の興味を持ったことに取り組んでいました。私はJRC部に携わっていました。本間に自主的な活動でした。中でも、盲導犬について調べ、実際に市内の店舗等の調査やアンケートを実施し、とうとう「盲導犬」の本を、自分達の手で作りに上げたことには驚嘆しました。当時盲導犬への理解はまだ世間一般には深まっておらず、自ら様々な課題に気づき、それを実行に移す。また別の代の部員は、学校で合宿をして眉山を清掃したり、国際貢献について考

えたりと、生徒達の発案で自発的な活動が増し、その中身も深まる。これらは本来、理想とする部活動の姿で、振り返ると、私自身も彼らから刺激をもらい、物事に取り組む姿勢を改めて学ぶ機会だったような気がします。城南の生徒達は、大学入学者、更に社会に出てからも伸びしろがあると云われるのは、このような所以だと思っています。

この原稿の依頼を頂いた時、何を書けば良いのか悩みましたが、城南時代を思い出すうちにたくさんの方が蘇りました。校誌「渦の音」の素晴らしさ、ホームルーム活動で生徒達と、また三月には先生方と登った眉山、F.S.。そして、実は私は城南での勤務の間に結婚し子供を三人産みました！当時は本当にご迷惑をかけてしまいました。子育てと仕事に奮闘した日々でしたが、素晴らしい先生方と生徒達の支えがあったからこそその充実した日々でした。そんな時期を過ごした城南時代だからこそ、時折出会う卒業生達と話をすることは、私の楽しみです。當時を思い出すことで心が立ち止まります。すると、何かと慌ただしい現在の生活を、また違った目で見つめることができ、リフレッシュした気持ちになれるのです。また頑張ろうと。私を前に向かせてくれる城南高校に、心から感謝しています。

昭和四十七年卒「乙女の会」同窓会

志磨 伸枝

チン・トン・シャン・友が奏でる三味線が響き、笑い声と重なる。昨年の「乙女の会」最高潮。幹事の演出に興じ、各々の今を語り合い、一年後の再会を約束して帰路についた。

一九七二年卒業。女生徒の少なかった時代だからであるうか、女性だけの同窓会をもつようになって今年で二十六年を迎える。始めた頃は子育て、仕事等が話題の中心で、参加者が少ない年もあった。

が、誰も止めようとは言わなかった。男子同級生に羨ましがられ、二次会には共に騒いだ年もある。

出席できない人は、近況報告欄を埋めて返信することで参加した。それをファイリングし、みんなで回し読む。なので、いつ参加しても居心地がよく、ゆったりできる。

いつしか退職の齢を過ぎ、参加できる人も増えた。話題も年相応に変わってきている。いつまでも「乙女」の心を忘れない同窓会の、これからが本番である。



平成29年度 旧徳中・城南高校同窓会 総会 講演会 懇親会

代表幹事 青山 博文(昭和62年卒)

「平成29年度旧徳中・城南高校同窓会総会・講演会・懇親会」

が平成29年8月13日(日)阿波観光ホテルで開催されました。

徳島市の阿波踊り開催期間のまったくだ中全国各地より総勢90名の方にお集まりいただき午後10時30分より開催の運びとなりました。

◆総会では長尾和子副会長(昭和47年卒)の司会進行のもと森一生副会長(昭和48年卒)の開会のあいさつでスタート栗飯原治仁同窓会会長(昭和51年卒)松山隆博学校長にご挨拶をいただき来賓として上原稔子松柏会会長にご祝辞をいただきました。

栗飯原会長が議事進行をされ「平成28年度事業報告・決算報告・監査報告」「平成29年度事業案・予算案」などの説明と審議が行われいづれも議案も満場一致で承認されました。

その後、恒例の表彰へと移りました。表彰されたのは最年長参加者の岡島一郎様(昭和21年卒)最年少参加者の飯田悠衣様(平成26年卒)で、栗飯原会長より賞状と記念品が授与されました。そして加藤真志副会長(昭和41年卒)の閉会の辞を以て総

会は終了いたしました。

◆11時30分からは写真家・映像作家であります宮武健仁様(昭



和60年卒)にて演題「輝く光景」

を求めての旅ということで講演水辺や火山などの発光生物の作り出す自然風景を中心に撮影

を続けており、その作品は、国内外のメディアでも多く取り上げられております。2014年

には招待されましたニューヨークなど各地で個展を開催。近年

子供向けの化学絵本なども写真集と並び出版されて

おり4k動画など進化するデジカメの新

しい撮影にも取り組んでいることをご紹介

映像とお話であったという間の1時間でした。

◆参加者全員による集合写真は幹事学年・次年度幹事学年以下とそれ以外の2班に分かれて撮影しました。2班(2カット)の

写真が1枚にプリントされ、出席者全員の顔が確認され、先輩後輩が一堂に会

する非常に貴重な記念写真となりました。

◆12時30分からの懇親パーティでは、幹事学年代表として川

人久範様によるご参加者のみなさんへの感謝の祝辞をのべ最

年長参加者であります岡島一郎様にあ

さつならびに乾杯の

ご発声で歓談がスタートいたしました。

卒業生のみなさまは久しぶりの再会に会話が弾み、

世代を超え親交を深めることがで

き楽しい時間を過ごすことができました。そして

今回この日のアトラクションと

いたしまして佐々木義典様(昭和37

年卒)をリーダーといいたしますハ

ワイアンバンド「MAIKAI」

様によりますハワイアンバンドの演

奏会会場内が盛夏のハワイに大変身

ハワイアン歴10年というベテラン3

人と女性ボーカル4人のメンパー

で、ハワイの文化や歴史を楽しみながらのすばらし

い演奏会でした。最後はみなさん

舞台上にাগりハワイアンダンスの練習阿波踊りと違いゆるやかな足の運びと手の動きに見た

目は簡単と思いがちですが非常に難しい踊りにみなさん四苦八

苦。踊り子のみなさんの指導でレイを首に飾ってだんだんうま

くなってきました。楽しい時間



も終わりをむかえ最後は毎年恒例の旧徳中および城南高校校歌斉唱。

最後は万歳三唱にてお開き時が過ぎるのも忘れるほど楽しく大変有意義な懇親会となりました。多くの方々のご理解、ご支援により無事開催できましたことを心よりお礼申し上げます。

東京

渦の音クラブ(関東支部)

活動報告

渦の音クラブ(関東支部)では、2017年11月19日(日)に、ホテルニューオータニに65人の参加者を集めて、平成29年度・第42回「渦の音クラブのつどい(総会、講演会、懇親会)」を盛大に開催しました。総会では、澤田会長(昭和49年卒)の開会挨拶、櫻井事務局長(昭和57年卒)による決算、事業計画、予算に関する事務局提案があり、原案通り承認されました。徳島からは、松山隆博校長先生、森一生同窓会副会長(昭和48年卒)にご出席頂きました。松山校長先生からは、文武両道で活躍する現役学生の様子、特に女子バレーボール部の「春高バレー」出場の報告や、二科展に全国初の高校生が6人も入賞した快挙などが報告されました。森一生副会長からは、同窓会本部の各種事業をご紹介頂きました。

続いて、幹事学年で建築家の吉田周一郎さん(昭和62年卒)に進行と講師紹介をお願いし、「徳島の建築家にできること」と題し



た内野輝明さん(昭和56年卒)による講演会でした。内野さんは、光や風を積極的に採り入れる住宅「風井戸のいえ」や、日本建築士会2014年まちづくり大賞を受賞した「先行高地移転試行(このすまい)」、個室型バスの先駆けとなった海部観光の夜行バス「My Flora」などで注目される建築家です。特に、南海トラフ地震を想定し、事前に徳島の木材をふんだんに使った高台への仮設住宅に転用可能な住宅プランを美波町(日和佐町)で実施していることなどを紹介頂きました。徳島を拠点とした自然環境を活かした空間づくりへの取組み、3.11以降の事前復興と林業再興を接続する試みなどについて、「人間に寄り添う」建築家らしく、土木とは異なる志向で「距離感」などの考えさせられるコンセプトを問題提起して頂きました。

会場を移して始まった懇親会は、幹事学年の峯田富次さん(昭和62年卒)の司会のもと、参加者で最年長の目下明男さん(昭和32年卒)の乾杯でスター

ト。その後、会場内で懇親を深めました。福永哲夫・前会長(昭和35年卒)、赤枝恒雄・前代議士(昭和37年卒)からスピーチを頂戴しつつ、学年を超えた交流を深めることができました。

今年も集合写真を撮影し、最後は、副会長の中川(佐川)洋子さん(昭和54年卒)のピアノ伴奏にのせて、参加者一同で「旧制徳島中学校歌」、「城南高校校歌」を大きな声で斉唱しました。そして、今年の当番学年の昭和62年卒の報告、来年の当番学年の昭和63年卒



の「来年は参加者100人超えを目指して頑張ります!」との決意表明が行われ、来年も学年を超えた関東地区在住の城南高校同窓生が集まりましょう!という思いを確認し、閉会となりました。

なお、若手会員の発掘、拡充を目的に、50歳以下限定の交流会を6年前から開催しています。

「第6回若手会員交流会」は、2017年10月15日(日)に、新宿の銀座ライオン会館に16人の城南高校若手会員(50歳以下)が集まり、楽しい時間を過ごすことができました。二次会も8人が残るなど、この勢いが「渦の音クラブ」の集い(総会・講演会・懇親会)につながっています。今年度も「第7回若手会員交流会」を計画中で

すので、詳細はホームページなどをご覧のうえ、50歳以下の城南高校卒業生の方は、まずはこちらの会から気軽に参加してください。

【関東支部事務局・三橋浩志(昭和59年卒)、三橋(田井)稔子(昭和59年卒)】



第6回若手会員交流会 2017年10月15日

2017年 城南近畿FSS会

近畿支部長 糸田川 廣志(昭和42年卒)

2017年城南FSS会は、10月15日(日)12時より、大阪梅田レストラン『モリシタ』にて開催しました。参加者は、徳島から栗飯原同窓会会長、松山校長、高木事務局長を迎え、合計27名でした。新しい参加者が9名あり、若手の人達にハガキ連絡をしたことが良かったかも知れないので、2018年も同様に連絡しようと考えています。

FSS会は、校歌斉唱後、来賓として栗飯原同窓会会長、松山

城南高校校長、徳島県人会近畿連合会会長木岡会長の挨拶を受け、高木事務局長の乾杯発声で懇親会へ移りました。

懇親会では、9月30日のNHKスペシャル番組に寒川賢治博士(昭和42年卒)が人体の神秘巨大ネットワークプロローグに出演したビデオを背景に、寒川博士にANPの話をしていただきました。現医学の発展に多大な貢献をしており、この番組を見て私もANP発見が偉



大きなことを実感しました。

新しい参加者が少し増えてきており、2023年に向けて走り始めていますが、新しい参加者が増えることは、近畿の継続の可能性も出てくることです。が、やはり徳島の本部との連携無しにはかなり難しいと感じています。

大きな要因は事業者（独立経営者）がほとんど見られなくなったことがあ

ります。社会全体が新規事業者を受け入れる懐が薄く、個性を伸ばす要素のない社会構造になっている感じで、同窓会に集まっても得るものが薄くなっていることも集まらない要因かも知れません。

我々の大学受験時代は、国立大学授業料は年額1万2千円で全国から有能な心ある人材が集まる要素があったが、現代は授業料が高いため、貧富の差もあり有能な心意気のある人材を集めることが難しくなっていると感じています。

城南F S会の前途はますます困難な時期へと1年1年感じています。私自身も古希超えをしており、医療費負担が2割の時代となつていきます。若い世代への恩返しをしなければならぬ時代ですが、老々介護の身でもあり、城南F S会の継続には若い人達の参加を促す以外にならぬと、今年もハガキ案内を出し、一人でも多くの参加があるようにしたいと考えています。

2018年城南F S会は、10月14日（日）12時を予定しています。ハガキ連絡を致しますので、参加をお願い致します。

十期生同窓会顛末記

寺岡健二郎（昭和34年卒）

五十余年前の東京オリンピックの日、あの素晴らしい青空にブルースパルスが描いた五色の飛行機雲は私達のピカピカの社会人、青春のまっさかりの象徴のようでありました。

故に、私達城南十期生（昭和三十四年卒）は毎年十月十日を「青春記念日」と呼ばせてもらいます。喜寿になった祝いを家族が誰も祝ってくれそうでないから、自分達で祝おうとちよつと偏屈だけど可愛さと色気の残った仲間達で七年ぶりの同窓会を企画した次第。

参加者五十三名、遠くは鹿児島から橋本君・ウズベキスタンから帰国直行した矢野君・世界を歩いてきた青本君等の珍客（？）も。会は、判明しているだけでも四十七名の物故者へ

同期同窓会



の黙とうの後、横浜から参加した足田君夫妻の乾杯で始まり、出席者各々近況報告等をやっていたが、周りが騒がしく誰もまともに聞いていない。ワイワイガヤガヤ楽しく勝手に三時間。最後は往時のF・Sの如く肩を組み、うろおぼえの校歌をがなりたてて無事お開きとなり、夕なすむ町へ、二次会へと消えて行った。

恩師が一人もない同窓会は

初めて。歳をとったなあ・と
思いながらも私達が在校生の時、七十七歳でこんな元気な老人がやたらいたものだろうかとも思われる。男子はまだ眼光輝いた者もいるし、女子はどうしてどうして本当に魅力的になっている。同窓会とは、うれしくて、楽しくて、いとおしくて、なつかしく、やがて寂しい祭りの夜の如し。

「城南35年卒関東同窓会」報告

事務局長 岩野 昌夫（昭和35年卒）

昭和35年卒の関東同窓会を4年前に立ち上げました。ご案内する同窓生は、東日本地区在住の同窓生と西日本地区在住の同窓生（有志）です。初代会長であった吉本修二君（故人）が「いつまでも続けられるわけではないので毎年開催してはどうでしょう？」と提案したことに他の幹事も賛同して毎年開催しており、今回で4回目となりました。幹事は、西川 章（会長）、沖野（松島） 静枝（女性会員担当）、田尻光彦（連絡網統括・会計担当）、柴田泰宏（撮影担当）、岩野昌夫（事務統括）の5名です。

今回は東京・市ヶ谷の私学会館「アルカディア市ヶ谷」で昨年9月29日の午後1時から3時半まで開催して32名が集まりました。この同窓会は目的として「旧交を温めこれからの人生を実り豊かにするために励ましあう」と謳っています。ある同窓生には「うちの同窓会には目的があるんだから！」と感心されるやら笑われるやらです。しかし、過去の思い出に浸るだけではなくてこの先の人生についても語り合い励まし合うことはそれなりに意味のあることではないかと思っております。とりわけライフワーク、健康、

趣味、ボランティアなどについて全員の2分間スピーチで自らを語る参加者の皆さんにはいつも励まされています。会の最後には校歌斉唱で一体感が盛り上がり、元気の良い中川新一君に三三七拍子で締めていただき閉会となりました。

また、この同窓会は結構面倒見が良く、今回も同窓会の後に散策（今回は会場近くの靖国神社か北の丸公園へ）、その後夕方からは赤坂見附の日本料理店で夕食会、さらにはカラオケへと繰り出して、夜遅くまで目一杯楽しめました。また、徳島など西日本地区から泊りがけで来ていた同窓生は翌日銀ブラをしてから帰路に就いたとのことで、いくつもの思い出を作ったことでしょう。

全員の集合写真とスナップ写真を柴田と岩野が手分けして撮り、集合写真には必ず並んでいる順に氏名を記した用紙を同封して送っていますので皆さんに喜ばれています。東條（川瀬）昭子さんの提案で集合写真を徳島新聞の同窓会紹介欄に投稿して掲載され、その紙面を大谷（小野）峯代さんが皆さんに郵送してくれましたが、このことがきっかけとなって高木事務局長から「旧徳中・城南高同窓会々報に掲載したい」とのご要望がありこの記事となった次第です。

この日この時間にここに来れば同窓生に会えるという「広場」を準備するのが幹事の使命と肝に銘じて少しでも長く続けていきたいと願っております。



城南昭和37会同窓会

幹事 森 莊太郎 (昭和37年卒)

平成29年10月9日(月)体育の日、ホテルグランドパレスにおいて37会の同窓会を開催した。前回は5年前の反省からお盆の阿波踊り期間中はバタバタしているのを避けようという回は秋の連休開催とした。参加者は88名、県外から33名、女性18名と、まずまずの人数が集まり日程変更の効果もあったようである。開会の最初に物故された方々の仲間の名前を読み上げご冥福をお祈りし黙祷した。次に世話人代表の橋秀紀君から参加者へのお礼の挨拶の中で「歳が増えても良いこともある。それは怖いものが次第になくなっていくことだ。病気でなくても受け入れ出来る」と森繁久弥が言っていたことを紹介した。

次にご参加いただいた恩師、居上雅美先生に今川素子さんから花束を贈呈した。先生からは、教師になってスタートしたのが城南高校、私たちとの出会いを心温まる言葉でご挨拶をいただいた。

そして乾杯、本日一番遠方の茨城から駆けつけた太田茂秋君が担当した。宴会の中では思い思いの近況報告が始まった。関西を代表して田村敏雄君、関東からは明石正雄君、70歳でエベレスト登頂制覇した楠忠樹君など、好き勝手なことに夢中になっているような話が多かった。徳島からは37会のみで運営しているラグビー同好会「ペンギンクラブ」の代表四宮好博君から、結成して42年間、ペンギンクラブは鮎喰川グランドで今でも月4回欠かさず練習している。練習後は、「喫茶 亭望」でコーヒードリンクを飲んでいる。最近では、毎回10名程度参加している。この永きにわたって続けているのは、まさに同窓の絆だ。と皆にも参加を呼び掛けた。

宴たけなわとなり、ビールを持って席を立つものが目立ってきたところ突然橋君がハーモニカの演奏を始めた。曲は忘れたがみんなの合唱が始まった。3曲ほどでちょうどいい時間となり、だれかがいつかまた会おうと言い出しお開きとなった。万歳三唱はこの人しかいない。岡田健一君が締めくくった。

丁度同窓会前日10月8日には、旧徳中城南高校ゴルフ大会第7回渦の音カップがサンピアゴルフコースで開催され、我が37会有志8名が参加して絶好の秋晴れのプレイを楽しんだ。



平成 29 年 10 月 9 日 於 ザ・グランドパレス

城南卒業55周年同窓会

平井 良明 (昭和38年卒)

城南高校卒業の先輩の皆様方、そして後輩の皆様たち、其々活躍の場を得られ元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。さて我々昭和38年卒業の城南38会も月日が経つのは早いもので、本年度卒業55周年を迎える歳になりました。我々の世代と相前後する世代から上の城南高校と言えば、県下に名だたる存在で、常に一目置かれていたが最近の卒業生や、在校生その親の世代の方々に、栄光の歴史の話題を振り向けても、全く知らないか、無関心なのにはいつも、一抹の寂しさを覚えていたところ昨年同級生4名に朗報が届き、同級生一同でお祝をしました。その概略を御報告いたします。

昨年度に4名が叙勲されました。ご紹介いたします。

川島 周君…旭日小綬章 (保健衛生功労)
河野善行君…瑞宝小綬章 (教育功労)
和田明人君…旭日小綬章 (保健衛生功労)
福田忠典君…瑞宝中綬章 (防衛功労)

次いで4名の略歴をご紹介します。

川島 周君…
高卒後↓京都府立医大卒↓東京女子医大…人工腎臓センター勤務後帰県し川島病院に入り理事長として現在に至る。

河野善行君…
高卒後↓日大文学部応用数学科卒↓帰県し県内各高校の教諭を歴任し川島高校、校長で退職↓文理大学助教授に着任↓神山町教育長を8年勤めて現在に至る。

和田明人君..

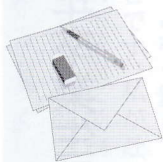
高卒後↓大阪歯科大学校↓
大阪市内で開業医の下で修
業後帰郷。昭和46年鳴門市
内で診療開始、現在息子と
共に活躍中。

福田忠典君..

高卒後↓防衛大学↓陸上幕
僚監部装備計画課長↓陸上
自衛隊第一師団長↓陸上自
衛隊富士大学校長退官
現在ボランティアとして徳
島県危機管理アドバイザー
を受任中

ともすれば過ぎし日の城南
高校生の数々の活躍の記憶も
忘れられがちな昨今ですが、
我々38会のメンバーから上記
の受章者が続出する事は誠に
栄誉で誉れ高い事です。これ
で城南38会の栄光の歴史に新
たな1頁が加えられ、自慢の
種が一つ増えました。先輩諸
氏の皆様、後輩の皆様、其々
の場で活躍され、我母校の名
をあげられる事を願っており
ます。

ここに平成29年11月5日に
開催した上記4名の叙勲記念
祝賀会の写真とともに謹んで
ご報告いたします。



平成29年城南38会同窓会 並川島岡君河野善行君福田忠典君
びに 和田明人君叙勲記念祝賀会



平成29年11月5日 於 建設センター

関東城南38会同窓会報告

事務局 東戸 信介

左記にて毎年恒例の同
窓会報告をいたします。
皆様の協力により盛会
且つ楽しい会になりま
した。なお、次回より幹
事(事務局)を村田雅則
君が引き受けてくれまし
た。村田君よろしくお願
いします。

日 記

平成29年7月28日(金)

17時〜20時半

場 所

如水会館14F「一葉」

電 話

03-3261-1101

千代田区一ツ橋2-1-1

地下鉄「竹橋」徒歩4分

「神保町」徒歩3分

会 費

5,000円/1人

その他

平成30年も開催予定

平成30年7月27日(金)

17時〜20時半

(残金6,600円は平成

30年に繰越します)



(上段) 東戸 羽山 山内 藤田 生田 松浦 川島 原 刀禰
(中段) 米本 森田 有井
(下段) 福島 中島 新居 村田 正城 斉藤 浜口

昭和62年卒業生同窓会

川人 久範 (昭和62年卒)

平成29年8月13日(日)、「平成29年度旧徳中・城南高校同窓会総会・講演会・懇親会」終了後、引き続き阿波観光ホテルにおいて、平成29年度総会の幹事学年である、昭和62年卒業生の同窓会を開催したところ、県内外から、多くの同窓生の皆様の参加をいただきました。

幹事長のお役目をいただいてから、幹事を引き受けていただいた13名と共に手探り手探りで準備を進めてきました。数か月前まで「果たして形になるのか」と不安で一杯でしたが、どうか100名を超える皆様に御参加いただき、開催の運びとなりました。

同窓会に先立ち、集合写真の撮影を行った後、青山博文君の司会で同窓会の幕を開けました。同窓会には、御来賓として、石川治郎先生、橋本久一先生、高木純一郎先生、白石久代先生の4名の恩師においでいただき、お元気なお姿を拝見することができました。それぞれの先生から、身に余るお言葉を頂戴した後、利穂拓也君の発声で乾杯を行いました。

同窓会は、卒業時のクラスを単位としてテーブルを設けまし

たが、各テーブルに着くなり懐かしい話に花が咲き、30年という時間の流れが一瞬で埋まったような気がしました。

話も盛り上がりつつあった頃、地元徳島のお菓子や徳島ラーメンといった豪華景品をかけたビンゴ大会を行いました。景品が当たるごとに、ステージに上がり、近況など一言述べていただいたのですが、驚きや笑いが絶えないなど、楽しい時間となりました。

今回は、城南高校昭和62年卒業という大きな同窓会でしたが、クラス同窓会や、中学校時代の同窓会をしようといった声も聞かれ、新たな広がりができた同窓会となりました。この同窓会が、こうしたつながりが今後とも広がっていくきっかけになればと、幹事一同願っています。

最後になりますが、今回御出席をいただいた先生方におかれましては、本当にありがとうございました。いつまでもお元気で、私たちを御指導くださいますようお願いいたします。

また、総会に始まり同窓会開催まで、数々の御助言、励ましをいただきました。昭和61年卒

業の諸先輩方、同窓会事務局の高木純一郎先生には、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さらに、公私多忙の中にもか

かわらず、1年前から共に準備を行い、支えていただいた幹事の皆様、本当にありがとうございました。とても心強く感じました。

今回お世話になったすべての皆様に感謝を申し上げます、代表幹事としての報告とさせていただきます。



第7回 渦の音カップゴルフコンペ報告

☆個人戦優勝：待田 勝さん（昭和49年卒）

☆☆団体戦優勝：昭和60年卒チーム（榎本高康さん・増田敬人さん・阿地宏明さん）

旧徳中・城南高校同窓会：第7回渦の音カップゴルフコンペが、秋風爽やかな平成29年10月8日（日）にサンピアゴルフクラブに於いて、過去最高人数となる男子99名、女子11名、総勢110名、30組のゴルフ大好き元城南健児が参加し、盛大に行われました。

当日は朝から好天に恵まれ、絶好のゴルフ日和の中で、午前8時32分から順次スタートし、個人優勝・団体優勝（各組上位3名のネット合計）を目指して、ファイアーストームのごとく熱戦が繰り広げられました。

基本的な組合せは、卒業年度別となっているため、皆さまそれぞれ昔の同窓生と学生時代に戻ったように楽しくプレーされていました。最高年齢は三木啓治さん（S28年卒）で、最若年齢チームとの年齢差は30数年もあり、こんなところからも旧徳中・城南高校の歴史と伝統を感じることができました。

個人戦優勝は、待田 勝さん（S49年卒）で、グロス80・

ネット70.4で、団体戦優勝は個人戦準優勝の榎本高康さん率いるS60年卒チーム（榎本高康さん・増田敬人さん・阿地宏明さん）で、グロス228・ネット217.2という素晴らしいスコアでした。本当におめでとうございます。

スコアには千差万別があり、参加者の皆さまそれぞれに満足・不満足様々あったこととは思いますが、110名の参加者全員が怪我もなく無事にコンペを終えたことが、幹事として大満足な一日となりました。

今回、何かとお忙しい中参加していただいた皆さま方には、幹事一同心より感謝申し上げますと共に、この渦の音カップゴルフコンペが同窓会と同様に、末永く継続していくことを願っております。

そして、次回第8回コンペに皆さま奮ってお誘い合せの上、是非ご参加いただけますようお願い申し上げます。

（第7回 幹事代表：S61年卒 山形 勝）

旧徳中・城南ゴルフコンペ 第8回「渦の音カップ」ご案内

日 時	平成30年10月7日（日） AM8時32分スタート（34組予約済み）
場 所	サンピアゴルフクラブ
費 用	プレー代金 13,480円（食事代別） 参加費 3,000円
幹事代表	川人久範（S62年卒）携帯090-1575-5560
呼びかけ人	森 壮太郎（S37年卒）

お申し込みについては、先着順とさせていただきます。
詳細につきましては、幹事までお問い合わせください。

硬式野球部OB会 発足10周年記念 総会・懇親会

立石 剛（昭和57年卒）

徳島県で高校野球が始まり、今年で120年。この歴史はそのまま旧徳中・城南高校硬式野球部の歴史に繋がります。城南高校硬式野球部グラウンドには「徳島県高校野球発祥の地」の石碑があるのをご存知でしょうか。

その硬式野球部において、OB会が誕生したのはちょうど10年前です。新年の1月2日、阿波観光ホテルにて、城南高校硬式野球部OB会第10回記念総会・懇親会が総勢75名の規模で開催されました。

ご来賓には栗飯原治仁旧徳中・城南高同窓会会長をはじめ、歴代監督の小川浩富岡西高校硬式野球部監督（S61）H4

年度監督)、和田哲幸板
野高校硬式野球部監督
(H7〜10年度監督)が
ご出席くださり、城南
OB監督である森恭仁
鳴門渦潮高校硬式野球
部監督(S61卒、H18
〜H26年度監督)、森河
丈志徳島市立高校硬式
野球部部長(S62卒、
H5〜6年度監督)、島
一輝城南高校硬式野球
部監督(H4卒、H27〜
とともに教え子や先輩
後輩たちと楽しい時間
を過ごしました。

出席したOB会員も、
OB会ができるまで野
球部後援会として部を
支えてくれたS38卒の
久次米尚武さん(OB
会名誉顧問)から平成
29卒の大野翔太さん、
富永大悟さんまで幅広
い年代にわたります。
年は違ってもかつては
同じグラウンドで白球を
追った先輩後輩たち。
毎年正月には楽しい思
い出話を花を咲かせて
おります。



おめでとうございます

(敬称略)

平成29年度 秋の褒章・叙勲

〔褒章〕

◇黄綬褒章

中嶋修三(79) 昭和31年卒
業務精励(木材業)
徳島市福島1-2-20

◇藍綬褒章

中村大藏(72) 昭和39年卒
補導受託者功勞
兵庫県尼崎市東園田町
4-150-27

〔叙勲〕

◇瑞宝中綬章

一宮亮一(84) 昭和24併 昭和27年卒
教育研究功勞
徳島市住吉4-7-4-3

平成30年度 春の叙勲

◇瑞宝大綬章

重松博之(70) 昭和41年卒
会計検査行政推進功勞
東京都世田谷区若林1-13-8

◇瑞宝双光章

奥谷キクヨ(71) 昭和40年卒
保健衛生功勞
鳴門市撫養町黒崎字松島134

古出哲彦(70) 昭和40年卒
税務行政事務功勞
新潟県長岡市今朝日
3-8-13-1502

坂東自明(70) 昭和41年卒
警察功勞
東京都三鷹市下連雀1-23-12

◇旭日小綬章
中野一雄(73) 昭和38年卒
地方自治功勞
徳島市飯谷町居内40

◇瑞宝小綬章

笹川皓一(70) 昭和41年卒
地方自治功勞
徳島市伊予町5-21

◇旭日双光章
福島 襄(70) 昭和40年卒
保健衛生功勞
阿波市吉野町西条字中小路23

◇瑞宝大綬章

邊見公雄(74) 昭和37年卒
保健衛生功勞
京都市上京区中町通丸太町下る
駒之町561-4-512

◇旭日双光章

藤田泰彦(73) 昭和38年卒
保健衛生功勞
徳島市国府町中171-4

過去5年間の主な国公立大の合格状況

入試年度	H30	H29	H28	H27	H26
国公立大合格数	127	147	154	142	110
北海道大					
東 北 大			1		1
東 京 大					
東京工業大					
横浜国立大		1		1	1
名古屋大	2				
京 都 大			1	1	
大 阪 大	2	1	2	2	3
神 戸 大	3	3	3	4	2
岡 山 大	14	10	8	13	12
広 島 大	3	1	4	3	2
九 州 大	2		3	1	
徳 島 大	46	51	51	46	37
鳴門教育大	3	4	8	5	3
香 川 大	9	7	5	14	11
愛 媛 大	7	8	12	2	3
高 知 大	3	18	3	5	3
大阪市立大	1	1	3	3	1
大阪府立大		2		1	
そ の 他	32	41	50	41	31

平成30年度入試の合格状況は、延べ人数で国公立大学に127名（内現役114名）、私立大学に313名（内現役280名）、短期大学及び専門学校に37名（内現役36名）、就職2名、公務員3名となりました。

国立大学では名古屋大2名、大阪大2名、神戸大3名、九州大2名、岡山14名、広島大3名、熊本大2名など旧帝大、地域拠点大にも多くの生徒が合格しています。

現役生の国公立大学の合格者は、近年、卒業生の40%を少し超える状況が続いています。過去5年間の主な国公立大学の合格状況は表のようになっていきます。すべての合格状況については、本校のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

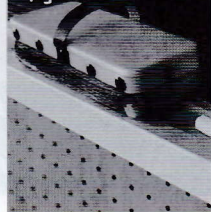
系統別では、「文高理低」の基調が続いており、経営・経済・商学部系統や社会・国際系統の人気の高まっています。また、資格が取れる医療系や教育系については相変わらず根強い人気があります。本校においても、

よく似た状況ですが、特に理系クラスに在籍している生徒が多くなっており、スーパーサイエンスハイスクール指定校として、今まで以上に数学、理科への興味関心や学力の向上に努めたいと考えています。

平成30年度入試から徳島大学の薬学部でAO入試が始まるなど、多くの大学でAO入試や推薦入試が実施され、大学入試が大きく変化しています。このように入試環境は変化しつつありますが、城南生は自主自立の精神のもと、勉強と部活動との両立を目指し、日々努力を続けています。すべての生徒が第一希望の進路が実現できるよう、これから教職員一丸となって進路指導に取り組みたいと考えています。

進路状況

城南高等学校 進路指導課 課長（進路指導主事）
佐伯 健司



平成30年度 本部（徳島）・支部同窓会のご案内

徳島

本部 同窓会総会・懇親会

日 時 平成30年8月12日（日）
10時30分より

会 場 阿波観光ホテル

講 師 半井 真司さん
（昭和49年卒）
JR四国代表取締役社長

懇親会 写真撮影が終了次第開宴

会 費 6,000円

東京

第43回渦の音クラブ（関東）の集い

日 時 平成30年10月6日（土）
12時より

会 場 ホテルニューオータニ
インターナショナル
レストラン「ガンシップ」

講 師 立木さとみさん
立木写真館常務取締役

会 費 8,000円

大阪

城南FS会（近畿）

日 時 平成30年10月14日（日）
12時より

会 場 レストラン「モリシタ」
大阪市北区堂島1-1-5
梅田新道ビルB1F
TEL 06-6341-0244

会 費 4,000円

参加申込、問い合わせは次ページの各事務局までお願いします。

後援会活動

(平成29年度実績・30年度計画)について

後援会長 森 莊太郎
(昭和37年普卒)

旧徳中・城南高等学校同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、後援会活動へのご理解ご支援をいただいておりますことに心からお礼を申し上げます。

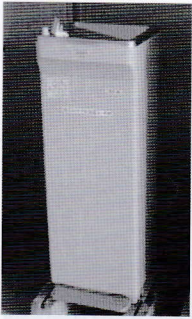
さて29年度の後援会の支援事業としましては、①生徒の県外大会出場支援費として30万円、②物品購入支援として、ワンタッチテント、冷水機の2点計32万5千円、合計で62万5千円の支援を行いました。

一方、後援会への会費寄付金の納入につきましては、個人81名の方から79万5千円、団体として阿波銀行、日亜化学工業、徳島県庁、徳島市役所、徳島新聞社の5支部から計53万8千円のご協力をいただき、合計で

133万3千円の入金をいただきました。

皆様からお預かりした後援会費の残金につきましては、次年度以降の支援金に充当させて頂くことといたしております。

平成30年度の具体的支援計画は煮詰まっておりますが、適切な支援を行って参りたいと考えているところであり、本年度も後援会へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



◇後援会ホームページURL◇
(同窓会のホームページと共用)

<http://www.bizan.info/>

◇ 会費等振込先 ◇

会費は 一口 5,000円 (何口でも可)
口座名義はいずれも「城南高等学校後援会」

金融機関名	店番号	口座	口座番号
阿波銀行本店	100	普通	1192723
徳島銀行本店	001	普通	7815411
口座 記号 番号			
(ゆうちょ銀行)	01680・2	60805	

平成30年度 同窓会総会・懇親会ご案内

- 日時 平成30年8月12日(日) 午前10時30分から(受付開始10時)
○場所 阿波観光ホテル(徳島市一番町3-6-13 JR徳島駅前)
○会費 6,000円
○講演 演題 『わざわざ乗りに来ていただける鉄道をめざして』
講演者 四国旅客鉄道株式会社(JR四国)

代表取締役社長 半井真司さん(昭和49年卒)

プロフィール 三好市(旧池田)出身。昭和31年生まれ。昭和49年城南高校卒、昭和53年神戸大工学部卒、日本国有鉄道入社。国鉄民営化に伴い昭和62年に四国旅客鉄道株式会社に。四国旅客鉄道株式会社平成28年6月から代表取締役社長。

今年の講演会は、四国出身者初のJR四国社長としてご活躍中の半井真司さんを講師にお迎えしています。全国に先駆けて人口減少が進行している四国において「わざわざ」来てもらう、「わざわざ」鉄道に乗っていただくことを目指した取り組みについて御講演いただきます。城南高校は二軒屋駅から徒歩5分という立地、通学に使われた方もいらっしゃるのではないでしょうか。身近なJRについて知ることができる貴重な機会です。是非、先輩・後輩・同窓生の皆様お誘い合わせのうえ、多数ご参加下さいますよう、幹事学年一同、心よりお待ち申し上げます。

平成30年度同窓会代表幹事 藤村 浩司(昭和63年卒)

事務局の案内

同窓会等のお問い合わせは下記の各事務局までお願いします。
同窓会・後援会ホームページもご活用ください。

旧徳中・城南高等学校同窓会事務局

〒770-8064
徳島市城南町2丁目2-88 城南高校内
高木 純一郎(昭和36年卒)
☎ 088-652-0084 ☎ 088-656-0484
メールアドレス jounandousoukai@ca.pikara.ne.jp
ホームページ <http://www.bizan.info/>

渦の音クラブ事務局

〒112-0001
東京都文京区白山4丁目24-17
三橋 浩志(昭和59年卒)
☎ 03-6912-0221 (FAXのみ)
メールアドレス info@uzunooto.jp
ホームページ <http://uzunooto.jp/>
日々の活動はフェイスブックでも発信中。
「渦の音クラブ」に「いいね」をよろしく。

城南FS会(近畿支部)事務局

〒665-0845 宝塚市栄町3-1-11-903
事務取扱は下記
〒771-2501
徳島県三好郡東みよし町昼間573-2
糸田川 廣志(昭和42年卒)
☎ 090-7751-9658 ☎ 0883-79-3270

発行ご支援のお願い

会報の発行は、卒業生の皆様方からの支援によって支えられています。これからも引き続いて定期的に会報が発行できるよう、皆様のご支援をお願いいたします。同封の振込用紙をご利用ください。